

令和6年度 事業報告書

社会福祉法人うめの木学園

1、利用者の状況

月	就労継続B型	生活介護	入所支援	うめの木ホーム	放課後等デイ
4月	708 名	1,238 名	1,380 名	159 名	168 名
5月	721 名	1,256 名	1,417 名	186 名	155 名
6月	679 名	1,201 名	1,372 名	180 名	146 名
7月	654 名	1,230 名	1,405 名	186 名	167 名
8月	597 名	1,023 名	1,432 名	171 名	142 名
9月	620 名	1,048 名	1,324 名	180 名	147 名
10月	735 名	1,240 名	1,379 名	186 名	169 名
11月	641 名	1,113 名	1,344 名	177 名	144 名
12月	654 名	1,092 名	1,383 名	186 名	166 名
1月	628 名	1,031 名	1,365 名	186 名	172 名
2月	559 名	911 名	1,229 名	168 名	143 名
3月	651 名	1,028 名	1,340 名	186 名	179 名
計	7,847 名	13,411 名	16,370 名	2,151 名	1,898 名
平均/日	29.2 名	49.9 名	44.8 名	5.9 名	6.6 名
前年度平均/日	29.7 名	52.6 名	46.3 名	5.9 名	6.5 名

月	支援センターうめの木		
	日中ショートステイ	宿泊ショートステイ	相談支援
4月	3 名	27 名	24 名
5月	5 名	7 名	32 名
6月	3 名	7 名	34 名
7月	8 名	0 名	29 名
8月	5 名	5 名	21 名
9月	6 名	4 名	20 名
10月	9 名	5 名	15 名
11月	8 名	4 名	32 名
12月	3 名	0 名	35 名
1月	5 名	2 名	38 名
2月	5 名	0 名	22 名
3月	3 名	0 名	21 名
計	63 名	61 名	323 名
前年度	60 名	120 名	333 名

2、行事報告

月	日	事業内容	備考
4	18	健康診断(入所のみ)	利46名
	23	虐待防止・身体拘束適正化ミニ研修	法人内研修
5	22	虐待防止ミニ研修	法人内研修
	30	歯科検診	利85名
6	4	婦人科検診	利19名
	12	理事会	
	18	胸部レントゲン	利77名
	21	土砂災害訓練	
	25	健康診断 ＜身体計測、血圧測定＞ ＜嘱託医健診、検尿＞ ＜血液検査＞ ＜心電図＞	利78名 対象…入所・通所全員 対象…入所・通所全員 対象…入所 対象…入所の40歳以上
	27	定時評議員会	
7	23	虐待防止・身体拘束適正化ミニ研修	法人内研修
	30	キッチンカー(和笑さん アイス)	入所
8	6	キッチンカー(和笑さん アイス)	通所
	7	輪おどり	利78名
	19	感染症BCPに関する研修兼訓練	法人内研修 【第1回】
	21	ミュージックアカデミーミニコンサート	小松特別支援学校との共催
10	9	創立50周年記念式典	利81名
	23	虐待防止ミニ研修	法人内研修
	29	避難訓練	日中活動中、通所棟のみ、夜間想定の3パターンで実施
11	8	インフルエンザ予防接種	入所
		コロナワクチン(8回目)接種	入所
	14	うめの木コンサート	利81名
	21	感染症BCPに関する研修兼訓練	法人内研修 【第2回】
	26	インフルエンザ予防接種	通所
12	9	理事会	
	12	クリスマス会	
	19	干支入魂式(代表者のみ)	
	23	自然災害BCPに関する研修兼訓練	法人内研修 【第1回】
1	20	初詣(代表者のみ)	
	22	左義長	
	27	避難訓練	休日、夜間想定で実施
2	18	自然災害BCPに関する研修兼訓練	法人内研修 【第2回】 ※AED取扱
	25	感染症対応研修	法人内研修
	26	避難訓練(地震机上訓練)①	
3	5	避難訓練(地震机上訓練)②	
	24	理事会	
	27	避難訓練	日中活動中、通所棟のみ、夜間想定の3パターンで実施

3、職員の研修状況

月 日		研 修 内 容	参 加 者
6	27	認定調査員研修	サビ管 3名
7	10	強度行動障害支援者養成研修	支援員 3名
	29	リスクマネジメント実践研修	支援員 1名
9	5～6	強度行動障害支援者養成研修	支援員 1名
	10	アングーマネジメント研修	支援員 1名
	3.13	障害施設初任者研修	支援員 1名
	5.19	障害施設中堅職員研修	支援員 1名
10	3～4	全国知的障害関係職員研究大会	支援員 1名
	24	感染症予防研修会	支援員 1名
11	14.15.21	OJT指導者養成研修	支援員 1名
	27	施設医療研修会	支援員 1名
12	9～10	北陸地区地域支援、相談支援合同研修会	サビ管 1名 相談員 1名
	9.12.13	虐待防止・権利擁護研修	支援員 1名
	10.21	障害施設中堅職員研修	支援員 1名
2	27～28	精神障害者支援研修	支援員 1名

4、ボランティア受入状況

月	日	活 動 内 容	名 称 等
7	17	窓ガラス、外壁清掃	小松加賀たばこ販売協同組合9名

※村田理容店による出張散髪は、月2回来園していただきました。

※3B体操西崎氏、月1～2回来園していただきました。

※百年珈琲林氏、月1回来園していただきました。

5、施設視察・見学及び実習の受入状況

月 日		受 入 内 容	名 称 等
6	3～14	福祉施設現場実習	金城大学短期大学 1名
	10～14	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
	10～21	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
	17～21	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
	24～28	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
7	22～23	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
8	6～13	福祉施設現場実習	金城大学 2名
9	2～13	福祉施設現場実習	金城大学 1名
11	11～14	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
	18～29	職場体験事業	小松特別支援学校 2名
1	20～24	職場体験事業	小松特別支援学校 1名
2	12～3/13	福祉施設現場実習	金城大学 1名

6、補助事業の状況

①福祉職員処遇改善臨時特例交付金(石川県) 930, 949円

7、学园内整備事業（自己資金による整備） ※100万円以上掲載

①福祉の森サーバー	1, 072, 077円
②福祉の森ソフト	1, 237, 923円
③多目的棟1F居室改装に伴う電気錠取り付け	1, 122, 115円
④LAN配線延長工事(多目的棟～ワークセンター)	2, 365, 000円
⑤ワークセンター玄関下足棚	2, 068, 000円
⑥ワークセンター機械室改修	2, 005, 300円
⑦体育館外装改修及び周辺整備工事	35, 200, 000円

8、苦情解決制度利用状況

※2件の苦情申出がありました。

苦情申出者	解決状況	内 容 等
地域住民	解決	<p>【内容】運転マナーに関する苦情 地域住民より、『学園の名前入りの車両が、見通しの悪い箇所では追い超しをかけたり、割り込みをしたりして危険である。事故につながる危険があるので、安全運転の徹底を強く望む。』とお叱りの電話があった。</p> <p>【対応】 施設長が電話対応し、謝罪。 当日中に、送迎業務に当たる職員全員に対し、安全運転の徹底について文書を配布。併せ、全職員に対して回覧文書にて注意喚起し、さらにLINEの連絡網を活用し、同様の注意喚起を実施した。</p>
地域住民	解決	<p>【内容】運転マナーに関する苦情 地域住民より、『片側2車線道路交差点で学園の車両と並列する形で赤信号停車をしていたところ、信号が緑に変わった際に学園車両が車線変更して割り込んできて、危険を感じた。』とお叱りの電話があった。</p> <p>【対応】 電話内容から該当車両が特定できたため、当該車両運転手に事情を聴いたところ、車線変更したことは間違いはないが、安全確認をした上で行ったことであり、事故につながるような運転ではない、との回答。普段から安全運転を心掛けている職員であることから、相手方との認識の違いであると判断したが、相手方が危険を感じた事実を受け止め、施設長が電話にて申出人に謝罪した。</p>

9、事故報告状況

分 類	件数	備 考
興奮・他害	4件	
転倒・転落	43件	実人数20人 ※前年度は22件
誤薬	10件	
内、落薬	5件	
ケガ	1件	
その他	9件	・無断外出 ・連絡確認不足 ・送迎ミス ・誤飲
合 計	67件	

10、地域における公益的な取り組み

(1) 施設の地域開放

- ① 小松市との間で『福祉避難所として民間社会福祉施設等を使用することに関する協定』を締結
- ② 石川県立小松特別支援学校に駐車場を提供（行事等に際し）
- ③ 石川県立小松特別支援学校にミニコンサート会場を提供

(2) 地域づくり活動

- ① 限界集落になっている地元町内の公民館等周辺の草刈り及び除雪
- ② 高齢化が顕著になりつつある稲作農家に対し、低料金にて、育苗箱の引き取り、洗浄、JAへの返却を代行
- ③ 地域行事の際のテント貸し出し

(3) 実施している社会福祉事業の延長上の活動

- ① 生活困窮利用者（通所）の食費免除
- ② 家庭の特別な事情を考慮した営業時間外のサービス提供（早朝等）

(4) 実施している社会福祉事業を受け皿とした公益的活動

- ① 障害者手帳を有する職員3名を雇用

(5) 社会福祉の向上に向けた活動

- ① 福祉系大学・短大及び専門学校からの実習希望者を積極的に受け入れ
- ② 社会福祉協議会等が実施する福祉の仕事体験希望者を積極的に受け入れ
- ③ 地元の特別支援学校生徒の実習及び職場体験の積極的受け入れ

(6) その他の活動

- ① ペットボトルのキャップをワクチンに交換する事業（エコキャップ運動）に協力
- ② 公益財団法人が実施している義援金活動に協力（職員による100円募金）

11、放課後等デイサービス事業における自己評価の実施

放課後等デイサービス事業について、管理者と現場職員それぞれの視点から自己評価を行いました。

評価結果については、次頁に掲載し、本「事業報告書」をもって公表することとします。

また、自己評価と併せて、保護者にもアンケート調査という形で評価を依頼しました。結果については、集計の上、書面にて保護者にお伝えしました。

		チェック項目	管理者 の観点	現場職員 の観点	分 析 結 果
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○	○	個別ブース、広い活動場、休憩できる部屋等、用途に応じた部屋を完備している。
	2	職員の配置数は適切であるか	○	○	資格を有する若手職員を採用することができ、職員体制がより充実した。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○	△	車いすで利用可能な設備に改修済みである。(一部は簡易スロープ設置)
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○	△	月1回の会議や個別の意見交換等、職員が参画できる体制になっている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○	△	年度末のアンケート調査により意向確認し、必要に応じて意見を取り入れている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○	△	毎年、事業報告書に記載している。事業報告書はホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	×	×	第三者評価は実施していない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○	△	WEB研修等も活用しながら実施している。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○	○	保護者への聴き取りは時間を掛けて行っている。ニーズや課題を計画に反映させている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	×	×	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○	△	それぞれの職員が得意分野を活かしながら、画一的な活動にならないよう工夫している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○	△	同上
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○	△	普段は個別活動が中心になるが、長期休暇時は集団活動を意識したプログラムを取り入れている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	△	△	同上
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	△	△	日ごとの利用児童はほぼ固定なので、役割分担はあらかじめ決まっており、情報共有も行われている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	△	△	支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○	△	月1回の会議により課題検証している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○	○	定められた期間で定期的にモニタリングを行い、計画の見直しを実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	△	△	ガイドラインを参考にしながら、児童の状況に応じた工夫をしている。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○	○	児発管又は担当職員が参画するようにしている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○	○	特別支援学校と隣接しているという立地条件を活かし、情報交換を行っている。

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	—	—	受入れ実績なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○	△	必要に応じて保育・幼稚園等との情報共有を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしているか	○	○	求めがあれば、必要な情報提供をしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	△	△	専門機関と連携し、困難ケースの助言を受けた実績がある。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	×	×	現状では難しい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○	△	時間が合えば必ず参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	○	連絡帳のほか、TELやメール、また送迎時に直接伝える等、共通理解を図れるよう努めている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	×	×	現状では、そこまでの余裕がない。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	○	契約時に必要な説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	○	相談しやすい雰囲気づくりに心がけている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	×	×	コロナ禍以降中断しているが、今後開催できるよう検討したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	○	契約時に苦情受付制度の説明をし、要望や苦情に対して適切に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	△	○	活動概要は連絡帳で詳しくお知らせするほか、行事予定は定期的にお便りを発行している。
	35	個人情報に十分注意しているか	○	○	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	△	誤解が生じないよう十分配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	△	×	法人として、脱コロナを目指して、地域交流について段階的に以前の状態に戻せるよう検討している。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	△	△	事務所に備え付けている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	○	定期的に実施するほか、夏休み期間に実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	○	年1回以上、法人内研修を実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	—	—	該当児童はいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	—	—	食事提供はしていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	○	積極的にヒヤリハット報告を活用するようにしている。

○ …はい

△ …どちらともいえない

× …いいえ

— …該当なし